

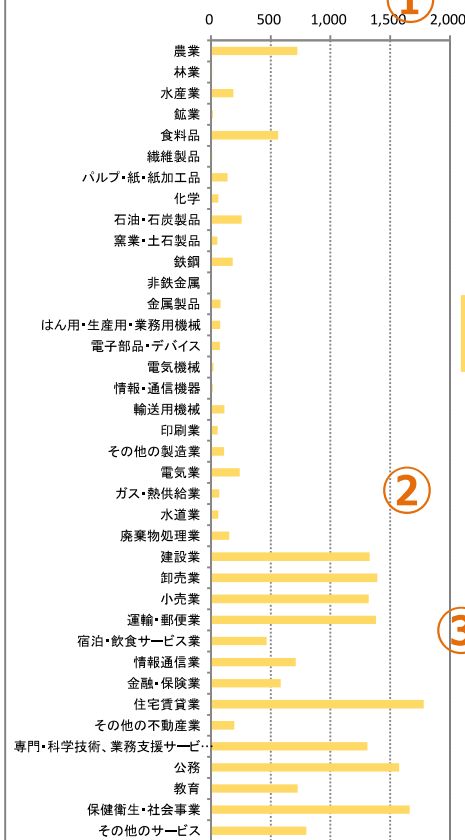
北海道総生産(／総所得／総支出)185,268億円【2015年】

フローの経済循環

生産

産業別付加価値額

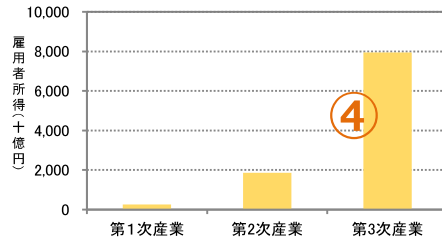
付加価値額(十億円)



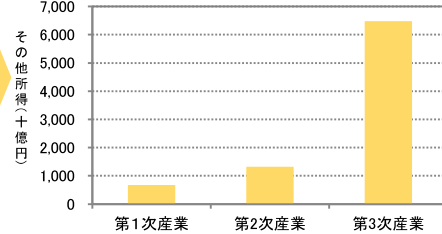
再投資拡大

分配

雇用者所得(100,547億円)

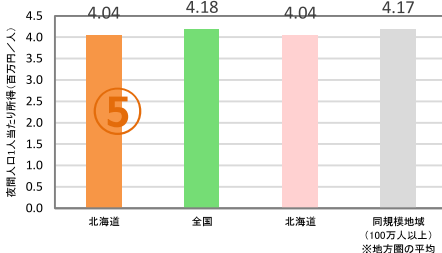


その他所得(84,721億円)



注) その他所得とは雇用者所得以外の所得であり、財産所得、企業所得、税金等が含まれる。

夜間人口1人当たり所得



支出

消費

175,487
億円

純移輸出

-27,318
億円

移輸出

127,298

移輸入

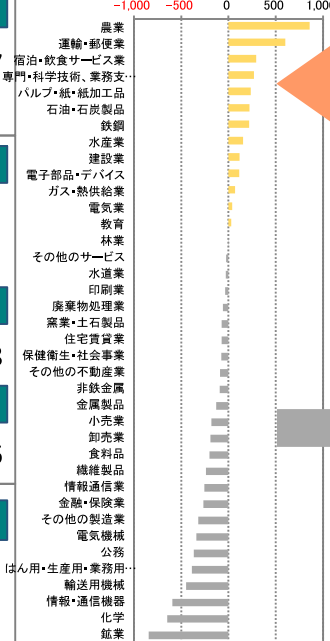
154,616

投資

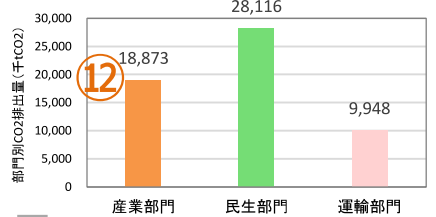
37,099

億円

純移輸出(十億円)



CO2排出量



地域外

民間消費の流入：
約11,026億円
(消費の約6.3%)

所得の獲得：
農業、運輸・郵便業、宿泊・飲食サービス業、専門・科学技術、業務支援サービス業、パルプ・紙・紙加工品、石油・石炭製品、鉄鋼、水産業、建設業、電子部品・デバイス、

エネルギー代金の流出：
約3,998億円 (GRPの約2.2%)
石炭・原油・天然ガス：約7,318億円
石油・石炭製品：約2,235億円
電気：約399億円
ガス・熱供給：約686億円

注) 石炭・原油・天然ガスは、本データベースでは鉱業部門に含まれる。
注) エネルギー代金は、プラスは流出、マイナスは流入を意味する。

民間投資の流出：
約16,442億円
(投資の約44.3%)

地域の所得循環構造①

地域の特徴

分析内容

生産

- ① 北海道では、住宅賃貸業が最も付加価値を稼いでいる産業である。
- ② 第2次産業では、建設業が最も付加価値を稼いでおり、次いで食料品、石油・石炭製品が付加価値を稼いでいる産業である。
- ③ 第3次産業では、住宅賃貸業が最も付加価値を稼いでおり、次いで保健衛生・社会事業、公務が付加価値を稼いでいる産業である。

- 域内の事業所が1年間で域内でどれだけ付加価値を稼いだか
- 付加価値とは、売上から原材料を除いた売上総利益である

分配

- ④ 北海道では、第3次産業の雇用者所得への分配が最も大きい。
- ⑤ 北海道の夜間人口1人当たりの所得は4.04百万円/人であり、全国平均と比較して低い水準である。

- 生産面で稼いだ付加価値が賃金・人件費として分配され、地域住民の所得(夜間人口1人当たり所得)に繋がっているか否か

支出

- ⑥ 北海道では、農業、運輸・郵便業、宿泊・飲食サービス業が域外から所得を稼いでいる。
- ⑦ 消費は域内に流入しており、その規模は地域住民の消費額の1割未満である。
- ⑧ 投資は域外に流出しており、その規模は地域住民・事業所の投資額の4割程度である。

- 域内の産業で、域外から所得を稼いでいる産業は何か
- 地域内で稼いだ所得が地域内の消費や投資に回っているか否か

エネルギー

- ⑨ 北海道では、エネルギー代金が3,998億円域外に流出しており、その規模はGRPの約2.2%である。
- ⑩ エネルギー代金の流出では、石炭・原油・天然ガスの流出額が最も多く、次いで電気の流出額が多い。
- ⑪ 北海道の再生可能エネルギーのポテンシャルは、地域で使用しているエネルギーの約16.46倍である。
- ⑫ 北海道のCO2排出量は、産業、民生、運輸部門のうち民生部門が最も多く、28,116千tCO2である。夜間人口1人当たりのCO2排出量は10.58tCO2/人であり、全国平均と比較して高い水準である。

- エネルギー代金の支払いによって、住民の所得がどれだけ域外に流出しているか
- 域内に再生可能エネルギーの導入ポテンシャルがどれくらい存在するか
- CO2がどの部門からどれだけ排出されているか

注) 再生可能エネルギーのポテンシャルには、環境省「再生可能エネルギー情報提供システム[REPOS(リーボス)]」における太陽光(導入ポテンシャルL1)、陸上風力、洋上風力、中小水力(河川部)、地熱(蒸気フラッシュ/基本150以上、バイナリー/基本120~150)を用いている。